

Suprime-Camの歴代SAより

2000年4月、大学院生時代Suprime-Camの開発に携わっていた私は、Suprime-Camの初代サポートアストロノマー(SA)としてヒロに赴任したのです。当時のサポートアストロノマーの私は「Suprime-Camの付属品そのX：生きたマニュアル緊急時自己診断修復機能付き」といような位置づけだったかもしれません。共同利用開始を控え、急ピッチで立ち上げ・調整が進む毎日、Suprime-Camの改良・安定化のため山頂作業連続xx時間で観測に備え、連続観測xx日、ここには書けないあれやこれや、なんて苦難の日々もありましたが、そんな苦難もその後に生み出される数々の成果に報われたものでした。

あれから17年、生きたマニュアルもだいぶボロボロになり、ページ(記憶)の欠落も増えてきた昨今ですが、最後まで無事に(一度はもうダメかと覚悟を決めました*1(仲田氏の記事4章参照))活躍してくれたSuprime-Cam。その立ち上げと運用に携われたことはたいへん名誉なことでした。お疲れ様、そして、ありがとう!

(小宮山裕)

Suprime-Camの運用で記憶にあるのは、とにかくいろんな人たちに助けてもらいながら仕事をしたことです。科学運用だけでなく、装置・望遠鏡、ソフトウェア、計算機、施設、事務、さまざまな部門のスタッフ、関係者の皆さんと会話を重ね助けてもらって、私自身も勉強させていただきました。その節はありがとうございました。

着任当初、おぼつかない私に身体で覚えると言わんばかりに毎晩のように起きたトラブル、完全空乏型CCDの導入に参加し観測モードを立ち上げたこと、観測体制についてオペレータの方々との議論を重ねたこと、ユーザフィルターの受け入れポリシーに頭をひねったこと、技術スタッフとの山頂作業、すべてが貴重な経験として思い出されま



歴代SA進化の図。

す。SAとしてSuprime-Camと歩んだ5年間は、観測運用やデータ管理がどうあるべきか、深く考える日々でもありました。そのときに根づいた(てしまった?)信念が今も私の重要な部分を占めていることは間違いありません。Suprime-Camは、私がサーベイ科学にかかわるきっかけを与えてくれた装置であり、今の私の基本も作ってくれました。Mahalo nui loa. Aloha a hui hou. (古澤久徳)

Suprime-Cam最後のprimary SAとして無事に最終観測を見届けられたことをたいへんうれしく思います。運用開始から15年以上が経ち、HSCの登場によって少しずつ活躍の機会が減りつつも、多くの研究者に一線級の観測データを提供し続けてきた姿を思い返すと、感慨も一しおです。幸い、私が担当を引き継いでからは深刻なトラブルが起きることはほとんどなく、比較的安定した運用を続けることができましたが、細かな不具合などはいくつかあり、冷や冷やすることの連続でした。最後まで役割を全うしてくれたことに心から安堵しています。開発チームや観測所スタッフの皆さんをはじめ、これまでさまざまな形でご助力いただいたすべての方々へ深く感謝しております。3年間という短い期間ではありましたが、Suprime-Camの運用に携わることができてたいへん光栄です。培った貴重な経験を活かして、今後はHSCのさらなる活躍を精一杯支えていきたいと思ひます。(寺居剛)

*1 あの冷却水の色がまた一層衝撃を増すんですね。いろいろな事情によりお見せできなくて残念ですが、エイリアン襲来後の戦場といったような、この世のものとは思えない凄惨な風景でした。